

快適環境だより

★★第119号★★
平成23年8月2日

発行 高山市快適環境づくり市民会議事務局
TEL0577-35-3138 Fax0577-35-3169

毎月1日は「省エネの日」ですが、エネルギーの消費が増大する夏季においては、省エネに対するより一層の意識高揚が必要です。このため国では、8月1日を「夏の省エネ総点検の日」として普及推進を図っています。前回の快適環境だより第119号でも「家庭ですぐできる夏の節電21」ということで、ご紹介しましたが、今一度、次の省エネチェック表を参考に、家庭やオフィスにおける省エネ活動を点検し、エコ生活の実践に努めてみましょう。

☆夏の省エネ総点検☆

No	省エネ項目	チェック
1	冷房28℃を目安に温度設定をしている。	☐
2	冷房機器は不必要なつけっぱなしをしないように気を付けている。	☐
3	照明は、省エネ型の蛍光灯や電球形蛍光ランプを使用するようにしている。	☐
4	人のいない部屋の照明は、こまめな消灯を心がけている。	☐
5	テレビをつけっぱなしにしたまま、他の用事をしないようにしている。	☐
6	冷蔵庫の庫内は季節にあわせて温度調整をしたり、ものを詰め込み過ぎないように整理整頓に気を付けている。	☐
7	冷蔵庫は壁から適切な間隔をあけて設置している。	☐
8	冷蔵庫の扉は開閉を少なくし、開けている時間を短くするように気を付けている。	☐
9	煮物などの下ごしらえは電子レンジを活用している。 (使用電力は増大するので、ピーク期間・時間帯における使用は避けた方がよい場合がある。)	☐
10	電気ポットは長時間使わない時には、コンセントからプラグを抜くようにしている。	☐
11	食器洗い乾燥機を使用する時は、まとめて洗い温度調節もこまめにしている。	☐
12	お風呂は、間隔をおかずに入るようにして、追い焚きをしないようにしている。	☐
13	シャワーはお湯を流しっぱなしにしないように気を付けている。	☐
14	温水洗浄便座は温度設定をこまめに調節し、使わない時はふたを閉めるようにしている。	☐
15	洗濯する時は、まとめて洗うようにしている。	☐
16	車を運転する時は、ふんわりアクセルを心がけている。	☐
17	加減速の少ない運転をするように気を付けている。	☐
18	早めのアクセルオフをするように気を付けている。	☐
19	アイドリングはできる限りしないように気を付けている。	☐
20	外出時は、できるだけ車に乗らず、電車・バスなど公共交通機関を利用するようにしている。	☐
21	電気製品は、使わない時はコンセントからプラグを抜き、待機時消費電力を少なくしている。	☐
22	電気、ガス、石油機器などを買う時は、省エネルギータイプのものを選んでいる。	☐

(経済産業省 News Release H23.5.31 より抜粋)

みなさんはいくつの項目を実践できていましたか？

実践できる項目を無理のない範囲で、少しずつ増やしていくことが省エネにつながります。

日頃の生活をもう一度見直し、無駄のない省エネ生活を送りましょう。



◎第22回飛騨高山クリーン作戦を開催しました！



6月5日（日）、飛騨高山ビッグアリーナ周辺において、第22回飛騨高山クリーン作戦を開催しました。

周辺町内会の皆様や、市民会議員の皆様など、約100名の方にご参加いただきました。回収したごみは、可燃ごみ14袋、不燃ごみ1袋、その他3袋となりました。

ご協力ありがとうございました。

◎第13回グリーンマーケットを開催しました！

6月19日（日）、原山市民公園においてグリーンマーケットを開催しました。

フリーマーケット、リフォーム製品フェア、花苗の無償配布、ガーデニング講習会、おもちゃ病院、ガラスリサイクル品展示、太陽光発電展示などのコーナーがあり、たくさんの方にご来場いただきました。



＜フリーマーケット＞



＜リフォーム製品フェアの当選発表＞



＜ガーデニング講習会＞

リフォーム製品フェアでは、粗大ごみとして出された不用品が職人の手によってきれいに生まれ変わり出品されました。今年は、棚や椅子などがあり、応募者数は28名、最高倍率は小物収納棚で8倍となりました。

ガーデニング講習会は、午前・午後の部、それぞれ30名の方にご参加いただき、講師の先生の説明を聞きながら、寄せ植えについて、実際に体験しながら学ぶことができました。

▼今後の行事予定▼

10/1（土）第23回飛騨高山クリーン作戦（時間：10時～11時、集合場所：高山市役所）

10/16（日）フリーマーケット＆リフォーム製品フェア（時間：10時～15時、場所：高山市役所）

※詳細については、広報たかやま、市HP等に掲載します。

生物多様性プロジェクト:いのちの森づくりプロジェクト第一章(森を知る)

※いのちの森づくりプロジェクトについて

高山市では、平成23年度より生物多様性プロジェクトのひとつとして、市民・民間・行政とが一緒に地域に合った樹木を植えて、本来の森をつくる「いのちの森づくりプロジェクト」に取り組むこととしました。

担当課である企画管理部地域政策課と関係課の職員で構成されるプロジェクトチームを中心に活動を展開していきます。

去る7月20・21日の2日間に亘って「いのちの森づくりプロジェクト」の第一弾が開催されました。このプロジェクトは、生物多様性の恩恵を認識すること、そしてそれを保存することの重要性について、市民のみなさんにも参加していただきながら一層の普及啓発を図ることを目的として実施される事業です。その実施に当たっては、植物生態学者であり横浜国立大学名誉教授の宮脇昭先生の指導のもとに進めています。宮脇先生は、その土地に合った樹種を調査し、現地で種を採り、それらを芽出ししてつくったポット苗を使用して植樹する方法（宮脇方式として



世界に認知されている方法）によって、今までに国内外1,700箇所以上で4,000万本を超える植樹を行ない、「日本で最も木を植えた男」「植樹の神様」として広く知られており、80歳を超えた今も世界中を回って植樹活動をされているのみならず、あと30年は木を植え続ける覚悟でいると話されるほど熱意のある先生です。今回は、乗鞍山麓五色ヶ原の森自然保護審議会会長を務めていただいているご縁から、このプロジェクトが発足しました。

今回は「いのちの森づくり 第一章」と銘打って、2日間で、上宝・清見・一之宮の3コースに分かれて、それぞれ実際にどんな木が生えているのかを観察した上で、森の中で先生にお話しいただきました。先生は、「その土地本来の木というものは長持ちするものであり、火事・台風・地震などあらゆる災害にも耐えられます。（漢字の形のとおり）木を2本植えれば林、3本植えれば森、5本植えれば森林になるのだから、その考えでたくさんの『いのちの森』をつくりましょう！子供たちの未来のため、自分の愛する人たちのために木を植えましょう！」と訴えかけられました。また高山市は標高3,000m級の飛騨山脈を擁しており、日本の植生が凝縮されているような土地ですが、これから『いのちの森』をつくるべき土地である、わたしたちが生活している標高600m前後の土地は、植生分類で言うとナラ帯文化帯で、ナラ・ブナなどが土地本来の木であるということなどを説明して下さいました。参加された市民のみなさんは、先生のお話にうなずきながら興味深く聞き入っておられ、また積極的に質問もされていて、とても意義ある時間になったのではないかと感じられました。

10月下旬に予定されている「いのちの森づくり 第二章」では、どんぐり、ブナなどの種を拾い、苗づくりをします。次回以降も、たくさんの市民のみなさんにご参加いただき、『いのちの森』が市内に広がることを期待しています。



（文：プロジェクトチーム 生活環境課 山本貴央）